

「子ども大学ひがしいるま」

本学教員が子どもたちに講義

「子ども大学ひがしいるま」が2月18日、ふじみ野キャンパスで行われました。

主催は文京学院大学を含む

むつ大学、商工会、教育委員会などの団体による「子ども大学実行委員会」。ふじみ野市・三芳町・富士見市内在住の小学4年生く

約100人が参集しました。

最初の講義は人間福祉学



「EFTタッピングセラピー」を指導する梶原准教授



クイズ形式で環境問題を教える細谷さん（ホワイトボード前）に大きな反応

科・梶原隆之准教授による「EFTタッピングセラピー」。「体をたいて悩みの吹き飛ばそう」をテーマに、梶原准教授が日本で初めて翻訳したセラピーを伝授しました。悩みの度合いを10段階で測定し、悩みを肯定・否定する言葉を言いながら、頭・眉毛・目の横など8カ所を順番に軽くたたいていく方法で、最後に再度測定すると、その度合いが薄れるという不思議な

セラピーです。子どもたちは思い思いの悩みの軽減に挑戦しました。

科・中山智晴教授が登場。「アフリカのゴリラは絶滅寸前」「3秒にひとりの子どもが餓死する」現実を伝える。さらに、同教授のゼミ生・細谷貴史さん（コミュニケーション社会科学科・日名子孝三教授が楽しい講義を展開します。

野口淳志さん（同）が「携帯電話に含まれるレアメタル産出のために森林が伐採され、ゴリラ生息地が侵食されている現実」について解説しました。クイズ形式を採り入れた解り易い内容に、子どもたちも積極的に意思表示をしました。

次回、本学の担当は3月28日（水）。心理学科・村井潤一郎教授、児童発達学